

新たなイノベーションを創出

市場戦略と技術融合

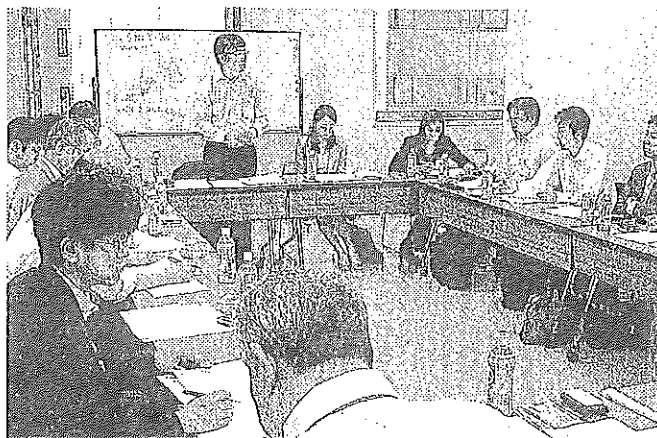
「もっとビジネス研究会」発足へ

道内の技術士集団と中小企業の経営者らが、テクノロジーとビジネスのマッチングを図りながら新たなイノベーションを生み出すと、異業種の経営研究会「もっとビジネス研究会」を始動させる。「もっと」はMOT(マネジメント・オブ・テクノロジー)の意味。23日に札幌市内で開く第1回研究会には、小樽商大の相内俊一特任名誉教授を講師に招き、「アベノミクスと経営者の覚悟をテーマに話題提供を受け、参加者全員でグループ討議する。

「小樽商大ビジネススクール(OBS)」の卒業生が中心となる。

技術士リングネットの松井義孝専務理事が、このほどOBSでMBA(経営管理修士)を取得したのをきっかけに、同窓生ら関係者に研究会発足を呼び掛けた。

松井専務理事は「われわれ技術士は良い技術が必ず売れると錯覚するが、現実はずしもそうとは限らない。そこでマーケティングやビジネスプランと技術的な課題と



6月25日の準備会。今後の活動方針などを協議した

案されたテーマについて議論を交わしていく。

第1回研究会は23日午後6時半から、札幌市内のなかで

が融合することで新しいイノベーションを生み出すことに期待した。参加には業種や規模、資格の有無は問わない。会の目的を共有し興味を持つ人は来てほしい」と話す。

今後主な活動として、研究会を月に一度開き、外部講師や参加者から提

6月下旬の準備会に

は、技術士をはじめ、建設、設計、コンサル、食品、病院などの中小企業の経営者ら約20人が参加。研究会の方針を確認したほか、今後の事業展開などについて意見を交

わした。 参加した技術士は「一般社団法人技術士リングネット」のメンバーが中心。技術士リングネットは個人レベルでコンサルタント業務を行っている技術士が4年前に組織

化。技術士資格取得に向けた講習会をはじめ、地方自治体への技術支援などを展開してきた。一方、中小企業の経営者らは小樽商大大学院商学研究科アントレプレナーシップ専攻(専門職)

参加申し込みは、技術士リングネット(札幌市中央区北8条西24丁目2の3、日新ビル)、電話011(699)6428まで。